

2 おともだちになりたいな

今日は、北九州市教育委員会が平成二十六年度に募集した人権作品の中から、北九州市若松区わかまつくの小学一年生、松尾祐里まつお ゆりさんの『おともだちになりたいな』という詩を紹介いたします。本人の朗読でお聴きください。

『おともだちになりたいな』

北九州市立修多羅すたら小学校一年 松尾祐里

「だれかなあ。」

きょうしつに、はいつてきたのは、

目がみずいろで、かみがおうどいろのおんなのこ。

なまえは、ももかちゃん。

「ニュージージーランドからのおともだち。

「いっしょにめぞぼう。」

ゆうきをだして、はなしかけてみた。

すると、りょうごをよこにして、わからないポーズ。

やっほひ、ひっぴいなこ。

はなすのは、やめようかな。

でも、ももかちゃんは、だれともはなせなかったら、さびしいだろうな。

いえにかえって、えいごのほんをみつけて、じゆうちゅうにかいた。

しぎのひ、えいごではなしてみた。

ももかちゃんは、にっこりわらってこたえてくれた。ことばは、あまりつうじなかったけど、いっばいあそんだ。えがおでなかよしになれたよ。

いかがでしたか。祐里さんは、ニュージージーランドからの転校生・ももかちゃんに勇気を出して話し掛けます。でも、言葉が通じません。話し掛けるのをやめようと思った祐里さんですが、誰とも話ができないももかちゃんは寂しいだろうなと考えます。そこから、祐里さんの素晴らしいところですよ。

家に帰り、英語の本を見付け調べます。次の日、祐里さんは、ドキドキしながら英語で話し掛けました。すると、ももかちゃんから、ニッコリと笑顔が返ってきたのです。慣れない環境の中で、一気に不安が吹き飛んだ瞬間だったのかもしれない。それから、二人は言葉の壁を越え、笑顔で仲良しになりました。

友達は、いいときも悪いときも自分を支えてくれる大切な存在です。自分が困ったとき、うれしいとき、友達にどう接してもらいたいのか。私たちも、自分を友達に置き換え、いつも思いやりの心と笑顔で接したいですね。

では、また。